



図5 肛門のヘルペス

小さな水疱があるときには、ヘルペスや帯状疱疹も鑑別に挙げられます(図5)。

最近、スキントエアという概念が提唱されています。「主として高齢者の四肢に発生する外傷性創傷であり、摩擦単独あるいは摩擦・ずれによって、表皮が真皮から分離(部分層創傷)、または表皮および真皮が下層構造から分離(全層創傷)して生じ



図6 スキントエア(容易にびらん、潰瘍を生じる)

る」と定義されていますが、医療従事者の虐待ともとられかねない現象であるため、正しい理解と対策が必要です。実際は高齢者などの脆弱な皮膚が軽微な外力で裂ける現象であるため、ワーファリンなどを内服して老人性紫斑が多発しているケースも多く、治療・予防には難渋します(図6)。

患者の費用対効果および疼痛を考えた治療の選択

これから高齢化社会になり医療経済が圧迫されることを考えると、比較的安価で治療効果の高い費用対効果を考えるのも大切だと思います。

外用剤

褥瘡治療では配合剤の違いだけでなく、基剤の違いを理解することが重要です。創面の滲出液の状態を観察して外用剤を選択します。軟膏は油脂性軟膏と呼ばれ、油のみでできていて、創面には水を与えず、逆に吸うこともありません。クリームは水と油を界面活性剤で混合したもので、①油が主成分で、その中に水が存在する油中水型と、②水が主成分で、その中に油が存在する水中油型

があり、加湿効果に優れていて創面に水を与えます。この他、マクロゴール軟膏に代表される水溶性基剤があり、創面を乾かす吸水作用があります。

壊死がある時期(黒色期、黄色期、図7)には壊死の除去と感染の制御が重要ですが、安価なゲーベン®クリームは基剤として親水クリームが用いられていて、乾固した壊死物質に水分を与え外科的デブリードマンを容易にするため、お勧めです(推奨度C1)。ゲーベン®は補水効果もあるため比較的疼痛も少ないですが、吸収性の高いヨウ素製剤などは刺激を訴える場合が多いため、患者に痛みがないか聞くことも大切です。壊死がとれ赤色期(図8 A)になると、滲出液が少ない場



図7 黒色期・黄色期

デブリードマンが重要
(出血に注意)

壊死をとる軟膏で洗浄が重要
(ゲーベン®, プロメライン®軟膏など)



図8 赤色期・白色期

肉芽をあげる軟膏(オルセノン®軟膏,
アクトシン®軟膏, フィブラスト®スプレーなど)

合は薬価の比較的低いオルセノン®軟膏もお勧めです(推奨度B)。オルセノン®軟膏は商品名は軟膏ですが、基剤は水中油型のクリーム基剤であるため、乾燥傾向の強い創面に適しています。加湿効果もあり、患者の疼痛も少なく、使いやすい軟

膏の1つといえるでしょう。
ラップ療法と陰圧閉鎖療法
肉芽形成促進時期の治療法として、ラップ療法と陰圧閉鎖療法があります。